

悪性リンパ腫とは、白血球の一種である「リンパ球」のがんです。本邦における報告では人口10万人あたりの罹患率は27.3(2018年)とされています。好発年齢は70～80歳台ですが、若年での発症もみられます。高齢化の影響もあり、ここ30年で罹患率は5倍程度まで増加しています。生活習慣との関連は比較的少なく、予防法も確立されていません。

血液細胞由来の病気であるため、全身いずれの部位からも発生し得ることが特徴で、リンパ系組織(リンパ節や扁桃、脾臓など)の他、消化管や肺、皮膚、脳などいろいろな場所から生じます。発生部位によって種々の症

状がみられますが、この病気自体が痛むことはまれです。顎の下や首回り、足の付け根周辺の無痛性のしこりが大きくなってくるときは早めに近くの病院への相談をおすすめします。

組織所見や発生部位から、約70程度の病型が知られており、急いで治療するものから経過観察するものまでさまざまです。基本的には全身疾患であるため、治療は抗がん剤治療が主体になります。必要に応じて、手術や放射線治療などを組み合わせることもあります。

血液・腫瘍内科 黒田 章博